

賃金、労働時間および雇用の動き

労働統計係

1 概 況

昭和47年度の茨城県の賃金、労働時間および雇用の動きを、毎月勤労統計地方調査の結果からみるとその特徴として、次の点があげられる。

(1) 回復してきた賃金上昇率

41年以降加速的に増加を強めてきた賃金上昇率は46年8月ニクソン声明を契機とした一連の国庫通貨調整の動きを背景に一時鈍化した。47年は定期給与（きままって支給する給与）・特別給与（特別に支給する給与）とも堅調に増加したため、現金給与総額の伸びは前年を0.8ポイント上回る16.7%とかなり回復してきた。

また、全国平均の15.8%に比べると0.9ポイント上回っている。

名目賃金上昇率対全国比較（単位：円、%）

区 分	42年	43	44	45	46	47
茨 城	42,417	50,334	57,783	67,429	73,153	91,167
対前年比	115.0	118.7	114.8	116.7	115.9	116.7
全 国	48,714	55,405	64,333	74,436	85,120	98,528
対前年比	110.8	113.7	116.1	115.7	114.4	115.8

このように賃金の伸びは回復したが一方では消費者物価の上昇もあって実質賃金は前年比11.6%（46年9.2%）の増加となった。

賃金上昇率の内訳をみると、定期給与にベースアップ率がかかなり高水準であったことと、所定外労働時間が後半著しく増加したことなどを背景に前年を0.4ポイント上回る2.4%増であった。一方、特別給与は年間で13.1%増となった。

現金給与総額によって賃金上昇率を産業別（みると、鉱業・ガス・水道業・金融・保険業が、前年の伸びをやや上回り、製造業のなかでは、金属製品、木材木製品、電気機械・精密機械などは、前年の伸びを3～14ポイント上回った。

(2) 所定内労働時間の短縮と、増加傾向の所定外労働時間

所定内労働時間は前年比0.2%減と短縮した。所定外労働時間は45年以降毎年減少を続けてきたが、47年に入ると次第に減少幅が小さくなり9月に増加に転じた。全国的にみてもその傾向を強めている。

製造業の所定外労働時間についてみると74年9月に24.6%と大幅な増加が傾向に転じ、その後5～6%の伸び率で経過している。

製造業のなかで大きく増加した産業をあげると、機械製造・食料品・たばこ・化学工業などであった。

(3) 雇用増勢の鈍化

46年に著しく鈍化した雇用の伸びは47年に入っても依然停滞を続け、後半にはややもちなおしたものの対前年に比べると0.6%減となった。

II 結果の概要

1. 賃金の動き

47年常用労働者の1人平均月間現金給与総額（サービ

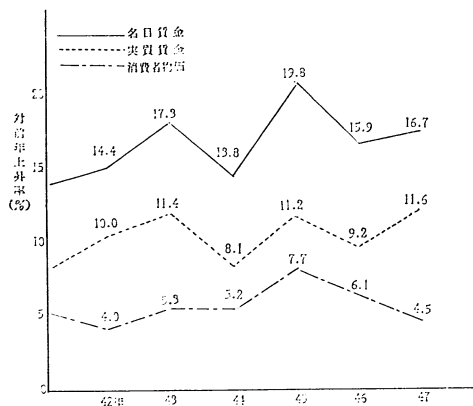
ス業を除く。以下同じ。）は91,167円となり、前年に対して116.7%増（16.7%）で、前年の上昇率15.9%に比べ0.8ポイント増加した。

産業別にみると鉱業20.2%、製造業16.9%、運輸通信業16.0%、建設業15.8%、電気・ガス・水道業15.4%、金融・保険業14.8%・卸売業・小売業11.5%の順でそれぞれ増加している。

製造業のなかで伸び率の大きかったのは、金属製品34.2%、木材木製品25.9%、電気機械18.6%、機械製造17.8%、化学工業17.4%などである。

また、金属製品、木材木製品・電気機械・納密機械などは前年の伸び率を3～14ポイント上回った。

賃金上昇率の動き（調査産業計）



2. 定期給与

47年常用労働者1人平均月間定期給与は、調査産業計で69,431円で、前年に対して17.8%増、46年の伸びに比べて2.9ポイント上回っている。

これを産業別にみると、電気・ガス、水道業92,967円（22.3%）が最も高い伸び率を示し、前年の伸び率と比較しても8.5ポイント上回っている。

3. 特別給与

47年の常用労働者の1人平均月間特別給与は21,736円（年間累計260,834円）で前年に対して13.1%増となり、前年の伸び率18.9%と比べ5.8ポイント減となった。

産業別では前年の増加率を上回った産業は鉱業・金融・保険業・卸売業・小売業・電気・ガス・水道業等である。

さらに特別給与を夏期手当（6月、7月）と年末手当（12月）についてみると、夏期手当は53,459円で19.2%増、年末手当は136,656円で18.3%増となっているが、前年の伸び率（夏期20.2%増、年末16.4%増）に比べると、夏期手当はわずかに1ポイント下回り、逆に年末手当は1.9ポイント上回っている。これは47年後半からの景気回復が影響したものと思われる。

4. 賃金格差

賃金水準を全国平均と比べると、全国では1人平均月

産業別にみた特別給与の動き

(単位円)

年次	総数	鉱業	建設業	製造業	卸売業 小売業	金融業 保険業	運輸業 通信業	電気・ガス 水道業
昭和46年	19,218	15,333	18,028	18,176	13,750	27,810	25,048	32,485
47年	21,736	20,975	20,781	20,409	14,866	31,737	26,801	32,278
対前年比	113.1	136.8	115.3	112.3	108.1	114.1	107.2	99.4

間現金給与総額は98,528円となり、本県の場合は91,164円で7.5ポイント下回っている。

この賃金格差は40年から年を縮少の傾向にあったが、

44年には格差拡大傾向となり、45年に再び0.8ポイント、46年に1.2ポイント、47年に0.7ポイント格差を縮め92.5%となった。

賃金格差 (現金給与額)

(全国=100)

区分	39年	40	41	42	43	44	45	46	47
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
茨城	82.0	82.7	84.0	87.1	90.8	89.8	90.6	91.8	92.5

賃金の対前年比

(単位：円)

区分	39年	40	41	42	43	44	45	46	47
全国	35,774	39,360	43,925	48,714	55,405	64,333	74,436	85,120	98,528
対前年比	109.3	110.0	111.6	110.9	113.7	116.1	115.7	114.4	115.8
茨城	29,318	32,542	36,878	42,417	50,334	57,788	67,429	78,153	91,167
対前年比	108.4	111.0	113.3	115.0	118.7	114.8	116.7	115.9	116.7

現金給与総額(調査産業計=100)の産業別賃金格差をみると、賃金の最も高い産業は電気・ガス・水道業(137.4)で前年(138.9)に比べ下降傾向を示しているものの依然高い水準を示している。最も低い産業は卸売業・小売業(77.6)であった。この結果からみると各産業間の格差が年々縮少傾向にあることがわかる。

5. 実質賃金の動き

実質賃金指数は、昭和45年(昭和45年=100)に比べると121.9となり前年に比べ12.7増加した。前年の増加率9.2%に比べ2.4ポイント上回っており、消費者物価上昇にもかかわらず実質賃金の伸びは好調に転じた。

Ⅲ 出勤日数および労働時間の動き

1. 出勤日数

47年における調査産業計1人平均月間出勤日数は22.2日で前年と同じ出勤日数となった。出勤日数が前年に比べ増加した産業は電気・ガス・水道業(23.0日)建設業(23.1日)であるがいずれもわずかに0.2~0.7日の増加で、その他の産業はいずれも減少、全体としては前年同様横ばい状態となっている。

これを男、女別にみると、男子は前年と同様22.3日で女子は0.1日増で21.9日となっている。

2. 労働時間

47年における調査産業計1人平均月間総労働時間(184.7時間)をみると出勤日数が横ばい傾向を示したのに並行して労働時間も前年と時間数を示し全く変化は見ら

れなかった。

総労働時間を所定内と所定外にわけると、所定内労働時間は産業計で167.9時間で前年の168.3時間に比べて0.4時間(0.2%)減少した。一方、所定外労働時間は16.8時間を0.4時間(2.4%)増加したが、前年の減の幅に比べて減少幅が小さくなった。

男、女別にみると、男子は1人平均月間189.4時間で0.1%減、1人1日平均8.6時間労働となった。女子は1人平均月間174.1時間で0.1%増1人1日平均7.9時間労働となっている。

これを前年に比べると男子は0.1時間減、女子は0.2時間増となっている。

Ⅸ 雇用の動き

1. 伸びなやむ雇用

常雇規模30人以上の事業所に雇用される推計常用労働者数は47年に220,799人(サービス業を除く。)で前年の221,624人に比べて0.6%(1,325人)減少した。

この雇用の動きを常用雇用指数(昭和45年=100)によってみると、100.4で前年に比べて0.6%減となった。雇用の伸びは、46年に著しく鈍化し、47年に入ってもなお停滞を続けている。

産業別に雇用の対前年伸び率をみると、増加を示した産業は建設業(4.4%増)金融、保険等(2.7%増)、電気・ガス・水道業(2.4%増)、運輸通信業(1.5%増)の順となっており、他の産業はいずれも減少している。

また、前年の伸び率を上回った産業は電気・ガス・水道業、運輸通信業のみであった。